

## 第 1 回 定例会 一般質問

## 9 名の議員が市政を問う



阿久津 佳子 議員

## 子育て支援（就学期）について

**問** 子どもの就学にあたり、本人、保護者と教育委員会、学校等が教育的ニーズと必要な支援について合意的形成を図っていくことが重要である。本市での就学相談支援体制、幼保小連携および就学後の小1プロブレム解消への取り組みについて伺う。

**答（教育長）** 小1プロブレムには教育委員会と学校が連携し、

教育活動指導員の派遣等、チームで対応するようにしている。幼保小連携として、幼児教育と小学校教育との接続、推進のための研修会等を実施している。

**答（健康福祉部長）** 平成 28 年度より 5 歳児スマイル親子相談を実施し、就学についての相談、療育関係機関や就学相談等へとつなげている。

**答（教育部長）** 幼稚園等と連携し、保護者の考えを大切に就学先決定への支援をしている。



越谷市立児童館コスモス

## 児童館について

**問** 子どもの健全な育成に大きく寄与すると考えられる「児童館」が古河市にはない。市民からの要望も高い。今後、児童館や教育的文化施設の建設予定について伺う。

**答（健康福祉部長）** 平成 27 年 11 月に策定した日赤跡地利用全体計画に、西側に児童館機能を含む複合施設を整備するとあるが、事業化されていない。今後は、ファシリティマネジメントの考えに基づき、病児・病後児保育の機能を新たな項目に加え、民間活力の導入等、さまざまな視点から再度検討が必要である。



秋山 政明 議員

## 職員の人材育成について

**問** 古河市をより良くしていくためには、市民の要望に対して、「できない」で応えるのではなく、先例にとらわれず、市民に寄り添い、市民のために、市役所内でたたかう気持ちが必要である。そして、やる気があり、主体的に行動できる職員が市の 5 年、10 年先を支えることになる。職員の人材育成を重要課題と考え、①やる気を生み

出す職場環境について、②市長が理想とする職員について、③古河市が長期的に発展するために何が必要か、以上の 3 点について伺う。

**答（市長）** ①上司と部下が互いにコミュニケーションを取り、職場の風通しを良くするよう指示している。ボトムアップを推奨し、今後の市政運営を行っていきたい。②市民の目線に立ち、柔軟で明るく親切かつ丁寧な対応ができ、古河市に強い愛情、愛着と関心を持ち仕事に取り組むことができる職員を理想としている。③社会環境の変化により、効率的な行政運営を行うためには人材の育成が大変重要である。人材育成により職員

の意欲とやりがいを引き出し、職員の満足度を高めることができれば、市民の信頼と期待に応えることのできる市役所づくりを進めることができ、市民の満足度が向上すると考えている。

**答（総務部長兼危機管理監）** ①資格を取得した場合の費用を助成する制度を設ける等、目標を持つような形で啓発している。



《その他の質問》

・消防団活動について